

牛サルモネラ症

根室南部事業センター 第二家畜診療課 獣医師 興 梶 一 成



○サルモネラ症とは？

サルモネラ症は、牛に感染すると下痢や流産などを引き起こすばかりではなく、人の食中毒の原因にもなる公衆衛生上重要な病原菌です。牛ではサルモネラ・ティフィムリウム、サルモネラ・ダブリンによるものが家畜伝染病予防法で届出伝染病に指定されています。本症の発生は農場に大きな経済的損失をもたらすとともに、終息までに数カ月を要し、防疫対策実施による肉体的、精神的負担も伴います。

○症状は？

子牛では、元気消失、食欲不振、40～42℃の発熱、悪臭のある粘液や血液の混じった水様～泥状下痢が見られます。下痢が長く続くと死に至ることも多く、回復しても予後不良となる傾向があります。成牛では、分娩後のストレスが大きい時期に発症することが多く、子牛と同様の下痢に加え、40℃以上の突然の発熱、乳量低下、起立不能、流産などの症

状も見られ重症例では死に至ります。

○治療法は？

発症牛は隔離し、感受性のある抗生物質や生菌剤の投与を行います。しかし、全身症状が治まり見かけ上回復しても、保菌牛となり新たな感染源となることもあります。治療効果の見られない発症牛は淘汰となります。そのため、予防がとても大切です。



下痢便(サルモネラではありません)

～ワクチンによる対策～

○効能・効果

サルモネラ・ティフィムリウム及びサルモネラ・ダブリンによる牛サルモネラ症の発症予防。

○用法・用量

現在、臨床現場で使用されているワクチンは、初回実施年度は、2mlずつを3週間隔で2回牛の頸部皮下に注射します。以後、約1年ごとに2mlを1回頸部皮下に追加注射します。



○最後に

サルモネラ症を防ぐには、踏み込み消毒槽を毎日交換し、外部から持ち込ませないことや、サルモネラの増殖を抑えるために、石灰散布や日光消毒などを定期的に行うことが大切です。できることから実践し、地域全体で発生を抑えていきましょう。